



# The PLAYING GUITAR [クラシック編]

## Ex-2◆VIVALDI

### The Four Seasons

① 人小 ⊙ 小人 simile ---

② 開中 ⊙ 中開 ⊙ 人小 ⊙ 小人 ⊙ 人小 ⊙ 小人 simile ---

③ 開中 ⊙ 中開 ⊙ 人小 ⊙ 小人 simile ---

④ 開中 ⊙ 中開 ⊙ 人小 ⊙ 小人 simile ---



▲1弦16fのTAP+左手 [8f人差指・12f小指]



▲1弦16fのTAP+左手 [7f人差指・11f小指]



▲1弦12fのTAP+左手 [5f人差指・9f小指]



▲1弦12fのTAP+左手 [4f人差指・7f小指]



▲1弦11fのTAP+左手 [2f人差指・5f小指]



▲1弦6fのTAP+左手 [開放・4f中指]



▲1弦12fのTAP+左手 [4f人差指・9f小指]



▲1弦11fのTAP+左手 [4f人差指・9f小指]

# Ex-2

かの有名なヴィヴァルディ「四季」だが、このEx-2部分の旋律は馴染みがないか。であっても、パターン化したタッピングを繰り返す中で浮かび上がってくるメロディーは覚えやすい。ここで問題なのは(TAP→人差指→小指→TAP→小指→人

差指)というパターン。前3音を繰り返すパターンに慣れている人にとっては、少々戸惑うものかも。そんな時は“2回目の小指”に神経を集中したい。多くの場合、このタイミングが遅れる(小指が即座に出ない) 状況だと考えられるからね。

バッハの「トッカータとフーガ」Ex-3はタッピングの神性を生かしてヘタル・ラインを決めている点が特徴であり、正確なリズム・キープがポイントになる。多分早くならないテンポに、ゆたたりと適止めを控える事が大切だ。尚、最後から3小節目の3拍以降は「50'Sマインド」のKey違い。要するにポールのお遊び、付け足してある。

# Ex-3



## Ex-3◆BACH

### Tocatta & Fugue(BWV565)



① 小 ④ 中 ④ 人 ④ 人 ④ 中 ④ 小 ④ 小 ④ 開 ④ 人 ④ 差 ④ 小 ④ 人 ④ 中 ④ 小 ④ 小 ④ 小 ④ 中 ④ 人 ④

人 ④ 人 ④ 中 ④ 小 ④ 小 ④ 開 ④ 人 ④ 差 ④ 小 ④ 人 ④ 中 ④ 小 ④ 小 ④ 小 ④ 中 ④ 人 ④ 小 ④ 人 ④ 中 ④ 小 ④ 小 ④ 小 ④

小 ④ 人 ④ simile - - - 小 ④ 人 ④ 人 ④ 人 ④ 人 ④ 小 ④ 小 ④

人 ④ 小 ④ 人 ④ 人 ④ 開 ④ 開 ④ 開 ④ 人 ④ 人 ④ 開 ④ 人 ④ 差 ④ 人 ④ 差 ④ 人 ④ 差 ④ 人 ④ 差 ④ 人 ④ 差 ④ 小 ④ 小 ④ 小 ④ 小 ④ 人 ④ 開



▲TAP(4弦12f)→18f小→TAP→8f中→TAP→11人



▲4弦5f人差指→TAP(12f)



▲TAP+左手を[4弦4f人→5f中→7f小]へ移動



▲4弦8f小指→TAP(12f)→開放→TAP(12f)



▲TAP+左手を[4弦2f人→4f差→5f小]へ移動



▲TAP+左手を[4弦4f人→5f中→7f小]へ移動

### Ex-4

バッハの「チェンバロ協奏曲第1番」Ex-4も、弾けば分かるポピュラー曲。楽法ポイントは、2小節目最後 [2弦11f] から3小節目最後 [2弦17f] までのポジション移動、及び指使いで、特に小指をやたら使いまくる点が辛い。だからこそ、小指強化には最適だと言える訳だが…。

### Ex-5

これはバッハの中でも馴染みが薄いか、2つのヴァイオリンのための協奏曲「Ex-5」。通してロックナイズではないフィンガリングが肝になるのは他のコースと同様だが、特に、正確な瞬間移動の良いエクササイズになるのが、4小節目3拍からの16分音符弾きでしょう。4小節目4拍最後のフォームから、5小節目最初はいきなり [5弦12f 人差指] にワープしたもの。コンテンポラリーなギ

タリストで巧いと言われる人の多くは、この手の強引な楽法をしばしば見せる。無理のない巧みな運びを考えるよりも単純にジャンプノって所か。とにかく、現代的な作戦ではある。

### Ex-6

リストの「マゼッパ」でまず問題なのは拍子だろうな。原曲通りだとEx-6のような4分の6拍子になるが、実際に演奏した音を聴くと全然コレ風には聴こえない…。これを巧くこなすためには、その拍子は考えない方がいいかも。下顎のような付点4分音符はタメで少々長めにし、8小節目の第1音までは5音ずつの下降(ただし2小節目の3弦5fからは4音、6小節目3拍の3弦9fからは6音)になる、という事だけを考えてトライすべし。で、8小節目の第2音以降はクロマチック・スキッピング上昇(P-18~P-25)、そして更に上昇…となる。リズムはこの無関係



## Ex-4◆BACH

### Harpichord Concerto No.1 (BWV1052)

人 薬 小 薬 人 薬 小 薬 小 人 薬 小 人 中 小 人 薬 小 薬 薬 小 人 小 小 小 人 中 小

小 小 人 中 薬 人 人 人 人 中 小 人 薬 小 人 薬 小 人 薬 小 人 中 小 人 中 小 人 中 中 人 中

## Ex-5◆BACH

### Concerto for 2 Violins & Orchestra (BWV1043)

人 薬 小 人 薬 中 人 中 中 中 人 中 中 中 人 小 中 小 中 人 中 中 中 中 人 中 中 中 中 中 中 中 中 人 中 中 中 中 小 人 中 中 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人



## Ex-6◆LISZT

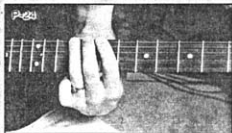
## Symphonic Poem "Mazeppa"



小 美 人 小 美 人 小 美 人 小 美 人 小 中 人 人 小 美 人 小 美 人 小 美 人 小 美 人 小

美 人 小 中 人 美 人 小 中 人 美 人 小 中 人 中 人 小 中 人 美 人 小 中 人 美 人 小 中 人 小 美 人 小 美 人 小 美 人 小 中

人 人 中 美 人 中 美 人 中 美 人 中 美 人 中 美 人 中 美 人 中 美 人 中 小 人 美 人 小 美 人 小 人 中





# The PLAYING GUITAR [クラシック編]

Ex-8◆MOZART

Symphony No.25

gtr  
Picking Tr.

中--- 中--- 楽--- 中--- 楽大人人小楽人小人 楽大人人小楽人小人 楽大人人小中人小人---  
中 人 中 人 小 中 人 小 人 小 楽 人 小 人 人 小 中 人 中 人 楽 人 楽 人 人 人 楽 人 中 楽 楽



▲1弦19f楽指→17f人差指。以下P-53まで10ポジション下指



▲2弦20f小指・19f楽指・17f人差指



▲2弦16f人差指・17f中指・18f小指



▲2弦12f人差指・14f楽指(ポール式ノ)・16f小指



▲3弦12f人差指・14f楽指(ポール式ノ)・16f小指



▲3弦9f人差指・11f楽指・12f小指



▲3弦8f人差指・9f中指・11f小指



▲4弦9f人差指(楽速ノ)・11f楽指(ポール式ノ)・13f小指



▲5弦10f人差指(楽速ノ)・12f楽指(ポール式ノ)・14f小指



▲6弦12f人差指(楽速ノ)・14f楽指・15f小指

## Ex-8

あのイングヴェイがライブで演って以来、あまりにも有る…、クラシカル・ロック・フリアークの定番にもなったのがEx-8のモーツァルト「交響曲第25番」。これを知らなきゃ多分モグリでしょうね。

このパートのメロディーは実にシンプル、故にギター奏法も奥にこなせるものだが、ビギナーにとって興味深いのはコード・アルペジオのパート。その5(6)小節目、7(8)小節目、9小節目の各1~2拍は、コードと音弾きの基本型として頭に残しておきたい。5(6)小節目は[4弦17f→3弦15f→2弦15f→1弦15f]のコードGm、7(8)小節目は[4弦19f→3弦17f→2弦19f→1弦17f]のコードD7、9小節目は[4弦20f→3弦19f→2弦20f→1弦18f]のコードGm。以上3フォームは、このピースからは非学び取るべきポイントである。特にビギナーは、幾つかあるコード・アルペジオの代表的フォームとして覚れるべからず。

尚、5小節目と6小節目は1音だけ(2弦18f音vs2弦19f音)違うが、これはホルルの軽いミス。実際には2弦19fの「ハーモニック・マイナー音」の方が正解。

## Ex-9

コンテンポラリーな瞬間移動のフィンガリングで手こずりそうなのが、ペーターヴェン「ロンド・ア・カプリッチョ『失われたペニーへの怒り』」。Ex-9。Ex-5(バツァ)のアレを更に洗手にした感じだ。

Ex-9を弾いてみれば一目瞭然、3節目以降の16分音符フレーズがこのピースの肝になる訳だが、中でもポイントになるのが人差指の強引な移動でしょう。つまり、3節目4小節目の[3弦8f人差指(P-50)→4弦9f人差指(P-51)]、3節目最後から4節目最初の[4弦9f人差指(P-51)→5弦10f人差指(P-52)]、4節目1小節目の[5弦10f人差指(P-52)→6弦12f人差指(P-53)]、そして4節目2小節目後半の[5弦12f小指→5弦14f人差指]…、この4カ所が、スムーズなフィンガリングの肝であり、最も明確なトレーニング・テーマである。

(上昇フレーズの場合)人差指をいかにして次のポジションへ速く綺麗に動かすか!? これは現代的、いや未来的フィンガリングの根になる。特に、同弦上で“人差指を瞬間的に上昇して”ポジションを昇させる4つ目は要練習、これを、ロック・ブレイにだけ浸ってはいけません。いかに動かしな

## Ex-9 ◆ BEETHOVEN

### Rondo A Capriccio / Rage Over A Lost Penny

The musical score for Ex-9 is presented in five systems, each containing a treble clef staff with musical notation and a corresponding bass clef staff with fingering diagrams. The notation includes various fingerings (P, H, R, F) and fret numbers (f) above notes. The bass clef staff uses letters (A, S, M, L, R, C, B, N, O) to represent fret positions for the left hand. The piece is marked with 'Allegro' and includes dynamic markings like 'p' and 'f'. The score is divided into measures and includes repeat signs and fermatas.

**Ex-10**

J.C.バッハの「チェンバロ協奏曲」Ex-10でボールが強調していたのは、2、3小節目のHやSによる“ヒネリ”であり、2小節目は「トリル後の2弦14fへの小指ハンマリング」、3小節目は「トリル後の3弦6fへのスライド→7f→9f（連続ハンマリング）」がテーマになる。どちらも小指の安定度が鍵になるが、2小節目トリルは【人差

指と中指】にした方が小指を出しやすいかも。ちなみに【人差指と薬指トリル…そして小指】という指使いはボールならではのスタイル。【人差指・中指・小指】の方が自然に思えるフレースも、ボールの手に掛ければ【人差指・薬指・小指】という事が珍しくない…と言うよりも、多い、常人にとって厄介な「薬指+小指」も、彼にとってはスキルフルな組み合わせなのである。

尚、6、8小節目に示した連続ダウン(門)スウ

ープは流麗なピッキングのツボ!

**Ex-11**

生音、指弾きによるバッハの「小前奏曲」リトル・プレリュード」Ex-11は、ソロものとは違う意味で左手強化の最適課題。派手さはないものの、これを完全にこなせた時、君のフィンガリングは知らぬ間に相当レベル・アップしているはずだ。裝飾音符の連続Sは“ゆったり”でOK。

**Ex-10 ◆ J.C. BACH**
**Harpichord Concerto**

人 人薬小人薬小人薬...小人 人薬...人中小小 人人人人小薬人人 人薬人中小人薬小 人薬小薬人小薬人薬人小薬人薬人

人中小小人小人薬小 人薬小薬人小薬人薬人小薬人薬人 人 小小中 人人人 人小小中人人 人小人薬人 人 人





Ex-11 ◆ BACH

Little Prelude (BWV924)

Arpeggio P-34 P-55 P-56 P-57 P-58 P-59 P-60 P-61 P-62 P-63 P-64

人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小

P-65

人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小 人人人小



▲ 8 弦 8 指 → 2 弦 6 指 → 1 弦 6 指 → 同 10 小指



▲ 5 弦 8 指 → 3 弦 10 指 → 2 弦 11 小指 → 1 弦 8 指



▲ 5 弦 8 指 → 2 弦 10 中指 → 1 弦 8 指 → 同 13 小指



▲ 4 弦 10 指 → 3 弦 12 指 → 2 弦 12 小指 → 1 弦 13 小指



▲ 4 弦 13 指 → 3 弦 12 中指 → 2 弦 13 小指 → 1 弦 11 指



▲ 9 弦 10 指 → 3 弦 12 指 → 2 弦 13 小指 → 1 弦 10 指



▲ 5 弦 10 指 → 2 弦 11 中指 → 1 弦 10 指 → 同 15 小指



▲ 4 弦 13 指 → 3 弦 14 指 → 2 弦 15 小指 → 1 弦 15 小指



▲ 4 弦 12 指 → 3 弦 14 指 → 2 弦 15 小指 → 1 弦 13 小指



▲ 3 弦 11 指 → 2 弦 11 中指 → 1 弦 10 指 → 同 11 指



▲ 5 弦 12 指 → 3 弦 10 指 → 2 弦 13 小指 → 1 弦 11 小指



▲ 4 弦 8 中指 → 2 弦 6 指 → 1 弦 8 指 → 同 10 小指

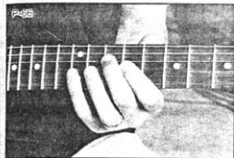


# EX-12

いよいよ佳境に突入！ この辺りまで来ると、さすがにスット弾ける奥跡ムードはなし。どれも強弱だが、このバッハ「平均律クラヴィア組曲〜プレリュード」Ex-12もかなりの気合いが必要。実にギター的なアルペジオの応用で盛り上げ

て行く、つまりキッズ好みのプレイだから、率しく弾けるとは思わうが、まず全体的には、1つ1つのフォームを注意深く確認して行く事が大切。例えば1小節目のフォームは、同じG音でも3弦12f (P-88小指音)と2弦8f (P-87人差指音)を使い分けている。スキッピングを続けるよりこの方が楽チン、という

お話だろうが…。この後も“珍しい”動きが多数。その1つずつを丁寧に覚えて行きたい。要領上の肝になるのは、8〜9小節目 [3弦9f中指・12f小指]、13&15小節目全体、16〜17小節目 [4弦7f中指・10f小指] という厄介な聞きでしょうね。ここは大いに慣れておく必要ありだ。尚、21、22、24小節目の6弦は親指使用、



▲4弦10f中指→3弦9f人差指→同12f小指の後、2弦8f人差指



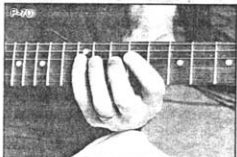
▲2弦を越えて1弦8f人差指→同12f小指→2弦8f人差指



▲4弦10f人差指→同12f中指の後、1弦8f人差指



▲3弦を越えて2弦10f人差指→1弦10f人差指→同13f小指



▲4弦9f人差指→同12f小指の後、3弦8f人差指



▲3弦を越えて2弦8f人差指→1弦10f中指→同13f小指

Musical score for guitar, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The score consists of 24 measures. The notation includes a mix of eighth and sixteenth notes, often beamed together, with frequent string crossings. Fingerings are indicated by letters (P for thumb, I for index, M for middle, R for ring, A for annular, S for little) and numbers (1-5) above the notes. Dynamic markings such as *p*, *f*, *pp*, *ppp*, *sfz*, and *sfz sfz* are used throughout. The score concludes with a final chord and a double bar line.

## Ex-13 ◆ BACH

### Invention for Harpsichord No.4(BWV775)

*gtr*

大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小

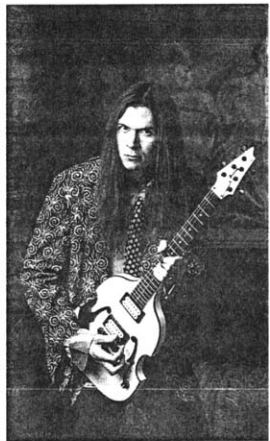
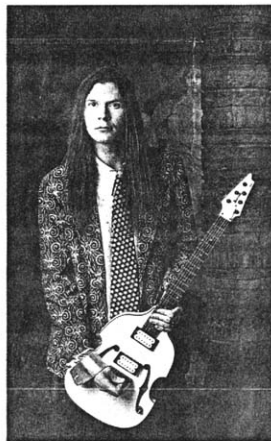
大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小 大 小

*H P*

中 大 中 小 中 大 中 小 中 大 中 小 中 大 中 小 中 大 中 小

*P*

大 中 大 小 中 大 小 大 中 大 小 中 大 小 中 大 中 小 中 大 中 小









Ex-14

ポール自身が書いたクラシカル・ピース…Ex-14は、ライブを始める、YG本誌(’93年1月号~12月号)掲載の“EXXCELLENT!!”ギター講座)及び、増刊「ポール・ギルバート流ロック・ギター講座」でお馴染み。ちなみに、Ex-14が課題だった’93年10月号の言葉を拾ってみると「元々はピアノで書いて、それをギターで弾いたらどうなるのか?と試してみた結果、こういうフィンガリングになったという具合。だからピアノで弾けば何て事のない簡単なメロディーだけど、ギターで弾いてみるとチョッと大騒ぎって感じのフィンガリングになってしまうんだ」との事。鍵盤楽器を持っている人は、同じような作り方にチャレンジしてみてくださいは!?

さて、ポール’s講座の時は前半8小節だったものが、今回は更に延長され、より曲としての展開が加えられた。その中で注目なのは、15小節目以降の上昇スレイ、特に最後の10連打、超ストレッチ(P-81~P-82)とスキッピング式ディミニッシュは、速弾きの奥の手としてモノにしておくこと使用3度最初の音(19!)からの[ダウン・アップ]オルタネイト・ピッキングを、細かくシャープなストロークで決めるのが鍵だ。

Ex-14

Gilbert Thing No.1



## Ex-15◆BACH

## Invention for Harpsichord No.8(BWV779)



8va

高 中 高 人 高 人 小 中 人 中 人 中 人 中 人 小 中 高 人 高 中 人 人 小 中 小 ... 人 小 中 小 ... 人 小 高 小 ...

高 中 高 人 高 人 小 中 人 中 人 中 人 中 人 小 中 高 人 高 中 人 人 小 中 小 ... 人 小 中 小 ... 人 小 中 小 ...

中 高 人 中 人 中 人 高 人 小 高 人 高 人 高 人 高 人 人 小 中 人 中 人 小 中 中 人 人 中 人 高 人 小 高 小 人 中 小 人 小 中 高 人

人 小 高 小 ... 人 中 中 中 人 中 小 小 高 人 高 人 小 高 小 高 人 小 高 人 高 人 小 中 小 中 人 小 人 中 人 中 小 中 中 人 中 中 小 中

cho D

cho D

人 人 人 小 人 小 小 中 人 中 人 小 高 小 高 人 高 人 高 人 高 小 人 小 高 小 人 小 人 高 人 高 人 高

小 高 人 小 人 小 中 人 中 人 小 中 人 小 人 小 小 高 中 高 中 高 中 小 中 人 小 人 小 中 人 中 人 小



## Ex-16

Ex-16は、バロック的なエンディングを感じさせるフレーズとして紹介しているもの、KeyはDマイナー。つまり、Dマイナーのクラシカル・インプロヴァイズ・ソロを運当に演った最後、この一節で締めれば、バロック最高潮!!の雰囲気が決まられるという訳。クラシックのみならず、例えば

ブルースでもそうだが、人の耳を奪う「入り方と終わり方」には、大昔から継承されたお決まりのパターンというものがある。歴史の中から生まれた一種の法則か…。何にしても、Ex-16はその1つだ。

## Ex-17

Ex-17もクラシカル・エンディングの1つ、ポー

ルを感じる「バガニーニ的演奏法」である。実際言うとこれは、レーザーX時代のある曲で演ったもの。なるほど、そこそこのテクが無ければ弾けないフレーズだが、ポイントは4小節目3拍最初の〔4弦6f〕、5小節目最初の〔4弦6f〕。ポジション・チェンジの起点になるこの2拍へ、いかに素早くスムーズに薬指を移動出来るかそこに掛かっている。

## Ex-16

### Baroque Ending

人 小 中 人 小 中 人 小 中

## Ex-17

### Paganini Ending

小 人 人 人 小 人 小 人 中 人 小 人 小 人 人 人 小 中 人 小 人 小 人 人 人 中 人

